

政策分野 IV-2 教育施策の充実

大きな社会的変化・変革の中で、新しい時代に対応する「生きる力」を持ち、千葉県の未来を担うこどもや若者を育てるため、学校・家庭・地域がそれぞれの役割を果たし、連携した取組を進めていきます。

施策項目

IV-2-①

こどもたちの自信を育む教育の土台づくり

目標

Goal

教職員が心身共に健康でやりがいを持って働き、
こどもたちが学びへの意欲を高め安全・安心に学校生活を送り、
誇りをもって学ぶことができる環境を整えるとともに、
様々な困難を有するこどもたちが誰一人取り残されることなく、
こどもたち一人ひとりの可能性を
最大限に伸ばすことができる教育を実現します。

現状と課題

Current Situation and Challenges

学校現場は、いじめや不登校、児童虐待、発達障害を含む障害のあるこどもや日本語指導が必要なこどもへの対応、経済的に困難な家庭への支援など、多様化・複雑化しており、教員の多忙化の要因となっています。

また、教員採用選考の受験者の減少や経験豊かな教員の大量退職、産休・育休取得者の増加や特別支援学級の増加などによる教員不足が課題となっています。

加えて、教員がこどもたちと向き合う時間を確保するために、外部の人材や専門スタッフの活用、地域や保護者との連携を強化するとともに、働き方改革により、教員の士気を高め、児童生徒の主体的・対話的で深い学びを実現する、質の高い教員集団を実現することが必要です。

さらに、人口減少、少子化などの社会の変化の中、どの地域でも質の高い教育を行うことができるよう、新しい時代に対応する学校の在り方を検討するとともに、高い専門性を有する教員の配置など学校の指導体制を充実することが重要です。あわせて、公教育の一翼を担う私立学校の振興を図ることや、全ての学

校を安全・安心な学びの場とする必要があります。

また、障害の有無にかかわらず誰もが参加し貢献できる「共生社会」を形成するため、全ての学校で特別支援教育を推進していく必要があります。さらに、特別支援学校では、児童生徒の増加に伴う教室不足などの過密状態が課題となっています。

あわせて、家庭の経済的状況や、様々な困難を抱える子どもたちが誰一人取り残されることなく、充実した生活を送れるよう、多様なニーズに対応した教育が求められています。

そのほかにも、日々進展するデジタル技術を教育分野でも活用することで、教育の質の向上や、教職員の負担軽減など校務の効率化を図る必要があります。

取組の基本方向

Basic Direction of Initiatives

優れた資質を有する教員を採用するため、採用選考の改善や大学との連携を進めるほか、教員の指導力向上を目的とした研修を充実させ、信頼される教員の育成に取り組めます。さらに、外部人材の活用や教員の業務改善など学校における働き方改革を進め、働きやすい勤務環境を整備します。

また、地域と一体となって子どもたちを育む魅力ある学校づくりを進めるとともに私立学校の経営の健全性を高め、保護者等の経済的負担を軽減します。

あわせて、学校の老朽化対策やバリアフリー化など、安全・安心で快適な学びの場づくりを推進します。

さらに、個別の教育的ニーズを持つ子どもの自立と社会参加を目指し、最も適切な指導や支援が受けられる「多様な学びの場」を整えるとともに、障害のある子どもと障害のない子どもが共に過ごすための交流や協働学習の場の整備を進めます。また、障害のある子どもへの一貫した教育相談と支援体制及び、卒業後の豊かな生活に向け、福祉などの関係機関とのネットワーク機能を充実させます。

加えて、不登校児童生徒の状況に応じた支援、いじめの早期発見・早期対応のための教育相談体制の充実や外部機関との連携強化、学習支援や学び直しなど再チャレンジすることができる機会の提供、経済的・家庭的理由で就学が困難な児童生徒への支援、外国人児童生徒等への日本語指導体制の強化などを充実させるとともに、相互の多様性を認め合う学校風土の醸成を推進します。

そのほかにもデジタル技術を活用することにより、教育の質の向上や児童生徒の学習成果の向上、教職員の負担軽減などを図っていきます。

主な取組

Main Initiatives

IV-2-①-1 優れた教員の確保と教育の質の向上

SDGs



教員の不足や志願者数の減少が進む中、優れた資質を有する教員を採用するため、教員という職業の魅力ややりがいをプロモーションするとともに、教員採用選考の改善等を進め、大学等と教員の養成段階から連携し、教員になることへの不安を軽減し、安心して働けるようサポートを行うなど、教員採用選考の志願者の確保に努めます。

また、デジタル技術を新たな学びのツールとして効果的に活用できるようにするなど教員の実践的指導力の向上等を目的とした研修や授業研究などの充実により、子どもたちに信頼される質の高い教員の育成を推進します。

さらに、教職員の働き方改革を進めるため、教員の事務を補助するスクール・サポート・スタッフの活用やスクールカウンセラー等との連携、民間人材など学校を支える外部人材の活用などによる「チーム学校」づくりを進めるとともに、教職員の業務内容の見直しや意識改革、校務のDXを進め、教職員がやりがいをもって働くことのできる職場環境を整備します。

また、優れた知識や経験を有する外部専門人材を学校現場に迎え入れる特別免許状及び特別非常勤講師制度を活用し、学校教育の多様性を向上させ、学校の活性化を図ります。

そのほかにも、学校への問い合わせを一括で対応する窓口の設置や県立学校における公共料金支払い事務の一括処理などを進めることで、教職員の負担軽減を図ります。

熱意あふれる人間性豊かな教員の採用

志願者増加に向けた教員の魅力発信

信頼される質の高い教員の育成

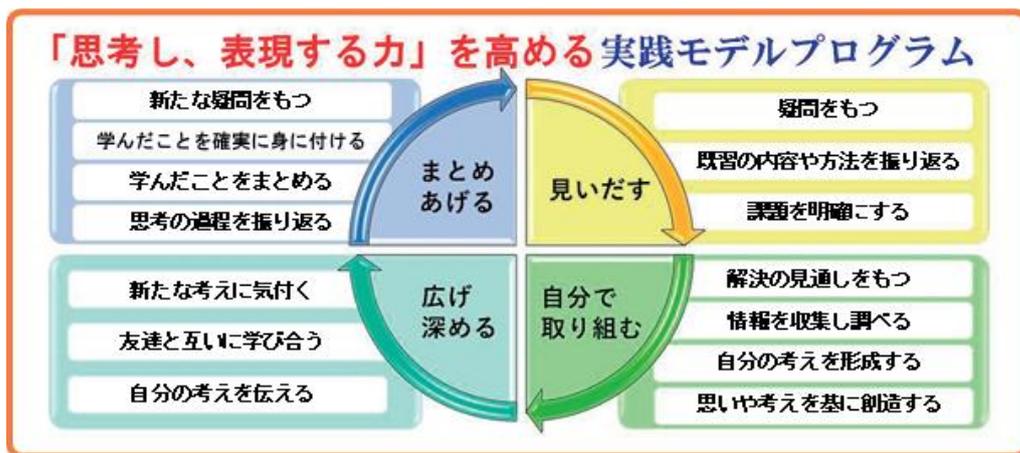
教職員における働き方改革の推進

多様な人材の活用による教員のサポート

業務の効率化に向けたDXの推進



教員採用プロモーション



「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラム」のイメージ

令和7年度版 明日からの指導に役立つアーカイブ

No	校種	事業名	事業内容	URL	教員向け			二次元コード No.奇数	二次元コード No.偶数
					児童生徒が活用	授業で活用	資質能力向上		
Coaching：指導力の向上									
1	小中高	「『思考し、表現する力』を高める実践モデルプログラム」の活用促進	「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の視点から授業改善を図るためのモデルプランを作成しています。	https://www.pref.chiba.lg.jp/kyouiku/shidou/gaku-ryoku/zissenmoderu/moderupuro.html		○	○	○	限定公開 (視聴方法は学校へ文書告知)
2	小中	達人の授業解説動画	教員の授業改善を目的とした授業解説動画(限定公開)を作成し、学力向上のための教科指導のポイントを明示しています。校内研修及び自己研修に活用してください。	限定公開 (You Tube)		○	○		
3	小中	「授業づくりコーディネーター」の認定	「主体的、対話的で深い学び」を実現する授業を実践できる教員を県が認定し、自校及び域内の学校を訪問して授業公開を行ったりするなど、授業改善を促進しています。	https://www.pref.chiba.lg.jp/kyouiku/shidou/gakuryoku/juqyo_coordinator.html		○	○	○	限定公開 (視聴方法は学校へ文書告知)
4	小中	「全国学力・学習状況調査」のデータ及び分析シートの活用促進	調査結果の概要に加えて、課題を改善していくためのヒントとなる情報を多く掲載しています。各教科の平均正答率ばかりではなく、児童生徒一人一人の学力・学習状況に目を向けて個別最適な学びの充実を図るとともに、自分の考えをまとめ、発表するなどの協働的な学びをおとし、児童生徒の学力向上を図ることに役立つ資料です。	https://www.ice.or.jp/nc/investigation/gakuryoku		○	○	○	
5	小中	「令和6年度全国学力・学習状況調査」分析結果(教育委員会議資料)	千葉県教育委員会議用にとまとめた「全国学力・学習状況調査」の分析結果を掲載しています。	https://www.pref.chiba.lg.jp/kyouiku/soumu/press/2024/documents/05-r6-6-hou3.pdf		○	○	○	限定公開 (視聴方法は学校へ文書告知)
6	小中	全国学力・学習状況調査の活用に係る動画	調査結果データの見方等について、説明している動画です。校内研修等で活用してください。	限定公開 (You Tube)		○	○	○	
7	小中	全国学力・学習状況調査活用の手引き	調査結果の概要に加えて、個別最適な学びの充実や協働的な学びをおとし、児童生徒の学力向上を図るためのヒントとなる情報を多く掲載しています。	https://www.caec.ed.jp/nc/investigation/gakuryoku/r6		○	○	○	限定公開 (視聴方法は学校へ文書告知)

「明日からの指導に役立つアーカイブ」(抜粋)

教員の資質向上に関する6つの柱と「養成・採用・研修」各段階との関連図



【千葉県・千葉市教員等育成指標】 1

教員の資質向上に関する6つの柱と「養成・採用・研修」各段階との関連図

教員の資質向上に関する指標

六つの柱	構成要素	養成段階	千葉県・千葉市が求める教員像	ステージⅠ 【成長期】 (学級経営、担当教科指導等) 学級・教科担任等としての 自覚と資質能力の向上	ステージⅡ 【発展期】 (学年経営、校務分掌主任等の ミドルリーダー) ミドルリーダーとしての 自覚と資質能力の向上	ステージⅢ 【充実期】 (学校運営等、職員全体へ 指導・助言) チーム学校をリードする 自覚と資質能力の向上	
				教職に必要な素養	使命感 責任感 教育的愛情 高い倫理観 コンプライアンス 服務規律の遵守	教職の意義 教員の役割 教職への意欲 課せられる義務等	○人間性豊かで、 教育愛と使命感に 満ちた教員
社会性 コミュニケーション能力	広い視野	豊かな人間性や人権意識を持ち、他の教職員や子供、保護者、地域住民等と、自らの意見も効果的に伝えつつ、円滑なコミュニケーションを取り、良好な人間関係を構築している。					
社会の変化への対応 広い視野 学び続ける意欲	学び続ける意欲 コミュニケーション能力	教育を取り巻く環境の変化を前向きに受け止め、教職生涯を通じて探求心を持ちつつ自律的かつ継続的に新しい知識・技能を学び続けている。					
教職に関する教養	教育の理念、歴史、思想 社会的・制度的・経済的事項等 についての基礎的知識(選択)	教育に関し、社会的・制度的事項やその意義、歴史等について理解するとともに、最新の動向に関し情報を収集している。					
教科等についての専門性	学習指導要領、幼稚園教育要領 に示された教科領域の目標、ねらい、内容	○高い倫理観を持ち、 心身共に健康で、 明朗、快活な 教員	各教科等においてそれぞれの特質に応じた見方・考え方を働かせながら、資質能力を育むために必要となる各教科等の専門的知識を身に付けている。				
授業実践 指導技術	基礎的な学習指導理論や発達や 学びの過程 指導技術 具体的な授業設計や保育を構想 する方法	○幅広い教養と学 習指導の専門性を 身に付けた教員	子供の心身の発達の過程や学習過程に関する理解に基づき、子供たちの「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行うなど、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けて、学習者中心の授業を創造し、実践している。				
子供の発達過程や特徴の理解 と信頼関係の構築 生徒指導	子供の心身の発達の過程、特徴 生徒指導の意義及び原理、生徒 指導の進め方	○幼児児童生徒の 成長と発達を理解 し、悩みや思いを 受け止め、支援で きる教員	子供の心身の発達の過程や特徴を理解し、一人一人の状況を踏まえながら、子供との信頼関係を構築するとともに、可能性や活躍の場を引き出す集団作り(学級経営)をしている。				
教育相談 個別指導	学校における教育相談の意義及び 理論 教育相談を進める際に必要な基 礎的知識	○組織の一員とし ての責任感と協調 性を持ち、互いに 高め合う教員	教育相談の意義や理論を理解し、子供一人一人の課題の解決に向け、個々の悩みや思いを共感的に受け止め、園・学校生活への適応や人格の成長への支援をしている。				
人権教育の推進 生徒指導上の課題への対応	人権教育の理念 理念に基づく、いじめ等の生徒 指導上の課題に対する適切な対 応の在り方		人権教育の理念のもと、いじめ、不登校、情報モラル等生徒指導上の課題に対し、他の教職員、保護者、関係機関等との連携を図りながら、子供に対し適切に指導している。				
キャリア教育 進路指導	意義及び理論、指導の在り方等		キャリア教育や進路指導の意義を理解するとともに、県の産業構造等を把握し、地域・社会や産業界と連携しながら、園・学校の教育活動全体を通じて、子供が自分らしい生き方を実現するための力を育成している。				
チーム学校を支える 資質能力	教育課程の管理・運用	各学校で編成される教育課程に ついての意義及び編成の方法 各学校の実情に合わせてカリ キュラム・マネジメントを行うこ との意義		カリキュラム・マネジメントの意義を理解し、教科等横断的な視点や教育課程の評価、人的・物的な体制の確保・改善等の観点を持って、組織的かつ計画的に教育課程を編成・実施し、常に園・学校の実態に応じた改善をしている。			
	校務分掌と連携・調整	指導以外の校務を含めた 教員の職務の全体像		学校組織マネジメントの意義を理解した上で、限られた時間や資源を効率的に用いつつ、学校運営の持続的な改善を支えられるよう、校務に積極的に参画し組織の中で自らの役割を果たしている。			
	家庭や地域、関係機関等との 連携・協働	取組事例を踏まえた家庭・地域 との連携、協働の仕方 学校の担う役割が拡大する中、 内外の関係機関との連携、分担 して対応することの必要性		家庭や地域、就学前から高等教育までを通した異校種間及びその他の関係機関との連携・協働に努め、地域とともにある学校づくりに取り組んでいる。			
	研修(研究)体制	研究と修養の必要性 資質能力の向上の必要性		研修履歴の記録を基に、自らの学びを振り返り、研修(研究)における成果と課題を把握するとともに、教員としての資質能力の向上を図るために必要な研究と修養に努めている。また、校内研修を教員同士の学び合いの機会として捉え、積極的に参加している。			
要 特 別 な 配 慮 や 支 援 を 必 要 と す る 子 供 へ の 支 援 対 応 を 必 ず 実 現 す る	特別な配慮や支援を必要とする子供の理解	特別な配慮や支援を必要とする 子供の特性及び発達の理解		特別な配慮や支援を必要とする子供の特性等を理解し、きめ細かく支援するために、子供一人一人の教育的ニーズを把握している。			
	学習上・生活上の支援	学習上・生活上の支援に関する 知識や方法		他の教職員、保護者、関係機関等と連携しながら、特別な配慮や支援を必要とする子供の教育課程の編成について適切に対応し、誰一人取り残すことのない個別最適な学びの実現を図っている。また、状況に応じた生活上の支援を工夫している。			
ICTや情報・教育データの 活用等	学習指導に関するICT利 活用	情報活用能力の育成 ICTを活用した教科の指導法		学校におけるICT活用意義を理解し、学習指導等にICTを効果的に活用するとともに、子供の情報活用能力(情報モラルを含む)を育成するための授業を実践している。			
	生徒指導に関するICT利 活用	ICTを活用した子供の支援		教育相談、いじめや不登校等の対応、子供の特性に応じた支援等にICT(遠隔・オンライン教育を含む)を効果的に活用している。			
	ICTによる校務効率化	情報機器の操作 情報機器の活用に関する理論及 び方法 ICTを活用した校務の推進		ICTは学校教育を支える基本的なツールとして必要不可欠なことを理解し、教育データの蓄積・分析・活用等を通して、校務の効率化を進めている。			

教員の資質向上に関する指標

IV-2-①-2 安全安心で魅力ある学校づくり

社会の変化や児童生徒の多様なニーズに対応し、豊かな学びを実現する教育活動が可能となるよう、魅力ある学校づくりを進めます。

各学校においては、専科指導や少人数指導など多様な指導方法により、きめ細かな指導を推進します。特に小学校においては、専門的な教科指導の充実を図るため専科教員の配置を進めます。学校を支援する体制については、スクールロイヤーやスクール・サポーターなど専門的知見を持った人材の充実を図ります。

また、県立高校については、地域連携協働校としての指定による小規模校の活性化、理数教育の強化、文理融合教育の推進や探究・STEAM教育※の充実など学習環境の整備を進めるとともに、職業系専門学科では学びの魅力化を進め、企業と連携した実習など実践的な学びを通じて地域産業を支える人材の育成を図ります。なお、水産系高校では遠隔地からの生徒の受入体制の整備を含め、柔軟に生徒募集を行えるよう検討します。そのほか、通信制の課程と定時制の課程を併設する新たなタイプの高校を設置します。

私立学校については、その教育水準を一層向上し、経営の健全性を高めるとともに、私立学校に在籍する幼児児童生徒及び保護者の経済的負担の軽減等を図ります。

加えて、私立学校の振興とともに、教職員研修の合同開催などにより、公立学校と私立学校との一層の連携・協力を推進します。

さらに、全てのこどもたちが安全かつ安心して学校生活を送れるよう、学校及び教育施設の老朽化対策やエレベーターの設置、特別教室や体育館への空調設備の導入、トイレの洋式化、特別支援学校の過密化対策などを計画的に進めます。

加えて、こどもたちが適切に判断し行動できる力を身に付け、事故や犯罪等に巻き込まれないための安全教育及び防災教育の充実を図ります。

SDGs

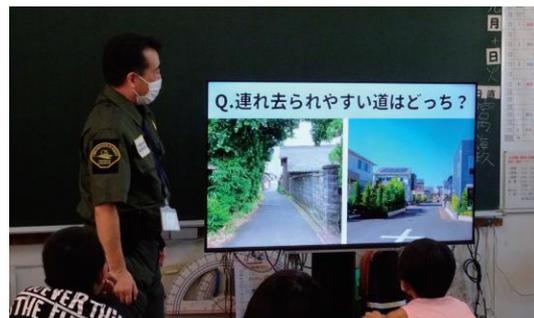


社会に支持され選ばれる魅力ある学校づくり

私立学校の振興と
公立学校・私立学校の連携の推進

エレベーターの設置や空調設備の導入など
安全・安心に学べる環境の整備

私立学校及び教育施設の
耐震化・老朽化対策の推進



防犯教室



交通安全教室



トイレ改修事業（木更津高等学校）



館山総合高等学校海洋科の航海実習の様子

IV-2-①-3

共生社会の形成に向けた 特別支援教育の推進

個別の教育的ニーズのあるこどもの自立と社会参加を見据えて、通常の学級、通級による指導、特別支援学級、特別支援学校など、その時点で最も適切な指導や支援が受けられるよう、柔軟で連続性のある「多様な学びの場」を提供し、一人ひとりがその力を発揮できる取組の充実を図ります。あわせて、障害のあるこどもへの一貫した教育相談と支援体制の充実のため、障害のある乳幼児とその保護者に対し支援する医療・保健・福祉等の関係者・関係機関のネットワークを構築し、家庭・福祉との連携を推進します。

また、様々な障害を理解し、児童生徒個々の教育的ニーズに応じた適切な指導及び必要な支援が行われるよう、学校を支える特別支援アドバイザーなどの外部人材の活用を推進するとともに、研修などにより教員の専門性の向上を図ります。

さらに、特別支援学校の新設や校舎の増築などにより過密状況の解消を図るほか、入院児童生徒を対象としたオンラインによる遠隔指導や、タブレット等の活用により教科指導の効果を高め、児童生徒の情報活用能力の育成を図るとともに、視線入力装置の活用など、デジタル技術の適切な活用により教育の質の向上を図ります。

SDGs



障害のあるこどもの学びと
切れ目ない支援体制の充実

特別支援学校の整備と機能の充実

特別支援教育に関する教員の専門性の向上

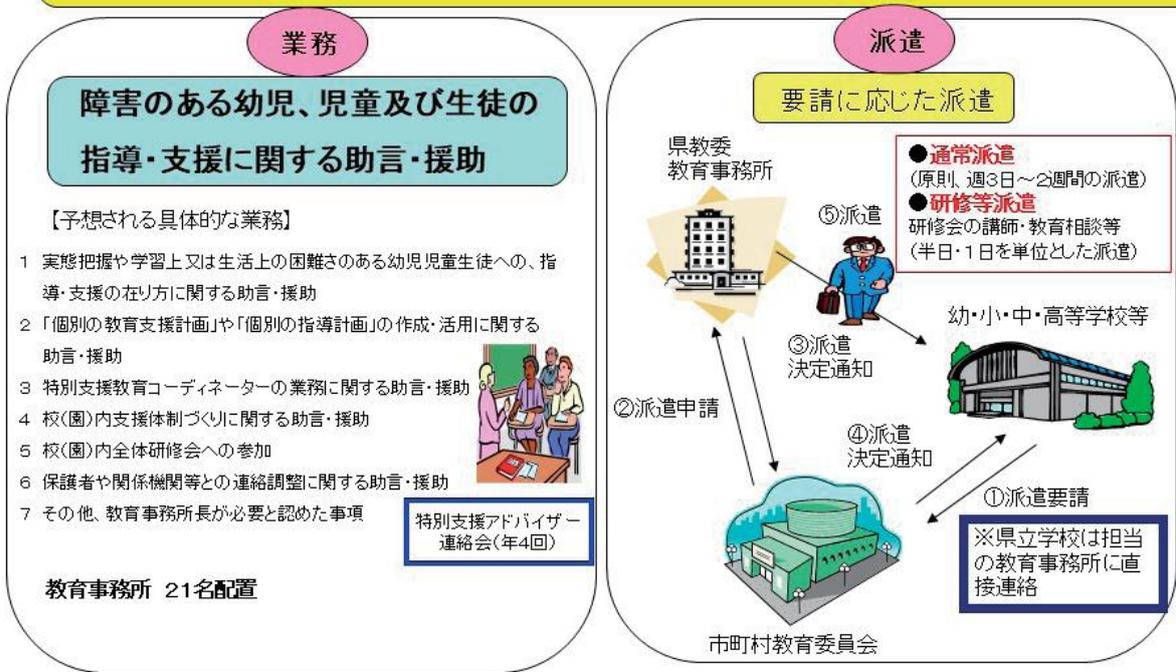
デジタル技術の活用による教育の質の向上（再掲）



病弱特別支援学校における遠隔指導の様子

特別支援アドバイザー事業(幼・小・中・高等学校等)

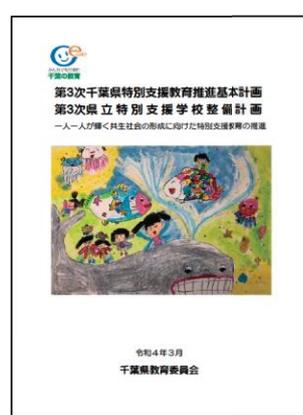
本事業は、特別支援教育や心理に知識、技術を有する「特別支援アドバイザー」を教育事務所に配置。要請に応じて公立の幼稚園、幼保連携型認定こども園、小・中学校、義務教育学校及び高等学校等を巡回し、発達障害を含む障害のある一人一人の教育的ニーズに応じた指導・支援の在り方等について、派遣先の学校の教員、特別支援教育支援員、ボランティア等に対し、助言・援助を行うものです。



特別支援アドバイザー事業の概要



第2次県立特別支援学校整備計画による特別支援学校の新設



第3次千葉県特別支援教育推進基本計画
第3次県立特別支援学校整備計画

IV-2-①-4 多様なニーズに対応した教育の推進

いじめや不登校などの問題解決に向けて家庭と学校が連携して取り組めるよう、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の人材の活用や、SNSを活用した相談窓口の設置など、子どもや家庭に対する相談支援体制の充実を図ります。あわせて、福祉と学校の連携等により、困難を抱えた子どもが安心して学べる環境を作っていきます。

いじめへの対応では、いじめの未然防止やいじめの積極的な認知などを推進し、いじめを認知した場合には、いじめられている児童生徒を守ることを最優先に、いじめの解消に向け学校全体で組織的かつ速やかな対応を行います。

不登校への対応では、不登校児童生徒の教育機会を確保するため、市町村教育委員会やフリースクールなど民間団体との連携を密にしながら、学びの多様化学校の設置に向けた検討やオンライン授業配信等に取り組むとともに、市町村教育委員会が設置する教育支援センターの機能強化や校内教育支援センターの設置促進を図るなど、個々の児童生徒の状況に応じた支援の充実を図ります。

また、高等学校等を中途退学した場合でも、学ぶ意欲のある人に対し、学習支援や学び直しの機会の提供など、学びへの機会確保を進めます。

さらに、家庭の経済状況にかかわらず、学ぶ意欲のある全ての子どもが質の高い教育を受けることができるよう、地域の様々な主体と連携した取組を推進します。

加えて、日本語指導ができる外部人材の配置や、日本語の理解力が十分ではない保護者と学校との円滑な連携・協力に向けた支援等により、教職員にかかる負担を軽減し、日本語指導が必要な児童生徒に対する受入体制の充実を図ります。

そのほか、一人ひとりの多様なウェルビーイング*の実現に向けて、互いに多様性を認め合い、他者を思いやることのできる学校風土の醸成に取り組めます。

SDGs



第1編

第2編

第3編

指標一覧

用語解説

参考資料

不登校児童生徒の状況に応じた支援*の推進

安心して学べる環境を実現する
いじめ対策の推進

学び直しなどの再チャレンジの機会の充実

経済的・家庭的理由など様々な困難への支援

外国人児童生徒等の受入体制の整備

相互の多様性を認め合う学校風土の醸成



日本語基礎の授業で「母国紹介」のプレゼンテーションの様子（県立生浜高等学校）



オンライン授業配信「エデュオプちば」の授業の様子

ちばコラム

DXを活用したこどもの居場所づくり

インターネット上に作られた仮想空間であるメタバースは、自分の分身となるアバターを介して、コミュニケーションを取ることや、疑似体験を行うことができるため、対人関係での不安を和らげ、自発的な交流を促す効果が期待できます。

県では、不登校の児童生徒のメタバース上での交流の場として「放課後メタバースちば～こさぼんの家～」を開設しました。思い思いのアバターを使って、自分の気持ちを表現したり、好きなことや興味のあることで仲間とつながったりするなど、安心して過ごせる場所となるよう取り組んでいきます。



IV-2-①-5 教育DXの推進

SDGs



デジタル技術を新たな学びのツールとし、児童生徒がデジタル端末を日常的に活用することを前提とした授業の再構築を行い、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させるなど、教育の質の向上を図ります。

そのため、各県立学校でのネットワーク環境の高速化を行うほか、一部の学校において、デジタル技術を効果的に活用した授業改善の提案等を行う専門人材の配置や、電子黒板の試験的な導入による活用方法の研究などを行います。

また、児童生徒の発達段階を考慮し、プログラミング教育など情報活用能力の育成を目指したカリキュラム・マネジメントを行うことで、児童生徒の学ぶ意欲を引き出すとともに、学習成果の向上を目指します。

さらに、教員においては、それぞれの教材・教具の特性を理解し指導の効果を高める方法、児童生徒によるデジタル技術の活用を進める方法など、研修等を通じて指導力の向上を図ります。

そのほか、業務改善DXアドバイザーの活用などによる校務のDXを進め、教職員の業務負担を軽減し、職場環境の改善を図ります。

デジタル技術の活用による教育の質の向上

デジタル人材の育成

教員のデジタル技術活用による指導力向上

業務改善DXアドバイザーの活用

業務の効率化に向けたDXの推進（再掲）



電子黒板機能プロジェクターを利用した授業